

孤独な青年

ひた、ひたと、足音は近寄る
素足は近寄る、ひた、ひたと・・・

このち小さき部屋に孤座して
私は、己の重さのみを感じ
それをもまた、支えきれず
今しも身体を丸め
黄泉の国、忘却の川に浸かるべく
ざく、ざくと、歩き出そうとしていた

素足は近づく、ひた、ひたと
耳を澄ます、ひそひそと
寂しい音の主は何処へ行くのか
願わくば、この廊下の
さらに
さらに長からんことを・・・

(1982.4.20)